



心理学  
講師  
井戸 啓介  
(1965生)  
博士(人間・環境学)  
(京都大学・平12)

■経歴

京都大学文学部哲学科心理学専攻卒(昭63.3) / 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了(平5.3) / 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了(平12.3) / 日本学術振興会特別研究員(平5.4～8.3) / 労働科学研究所研究員(平8.4～平13.3) / 富山県立大学工学部講師(平13.4～) / 放送大学客員准教授(平26.4～平30.3) / 北陸心理学会理事(平28.4～) / 日本心理学会認定心理士の会北陸支部幹事(平29.4～)

**担当科目** 心理学Ⅰ / 心理学Ⅱ / 環境論Ⅱ / 教養ゼミⅠ / 教養ゼミⅡ / トピックゼミⅠ / トピックゼミⅡ / 認知情報科学(大学院)

**専門分野** 実験心理学 / 認知科学

**論文・報告**

「対比・同化現象の解析による運動視機構の研究」(学位論文)  
“Effects of luminance contrast and phase difference on motion assimilation for sinusoidal gratings”, Vision Research, 1995, pp.2277-2286.  
“Dependencies of motion assimilation and motion contrast on spatial properties of stimuli: spatial-frequency nonselective and selective interactions between local motion detectors”, Vision Research, 1997, pp.1565-1574.  
“Summation between nearby motion signals and facilitative/inhibitory interactions between distant motion signals”, Vision Research, 2000, pp.503-516.  
「高年齢 VDT 作業者の作業実態と疲労自覚症状」, 労働科学, 2003, pp.1-16.  
「Ternus display の運動知覚における刺激要素の空間周波数の効果」, 基礎心理学研究, 2011, pp.25-33.  
「2 フレーム仮現運動における運動の同化現象の時間特性: 誘導刺激とテスト刺激の時間的非同期の効果」, 映像情報メディア学会論文誌, 2012, pp. J192-J195.  
「視覚運動プライミング現象における空間周波数の効果」. 心理学の諸領域, 2014, vol. pp.1-11.

**所属学会**

日本視覚学会 / 日本心理学会 / 日本基礎心理学会 / 北陸心理学会 / 映像情報メディア学会 / 日本アルバン・ベルク協会 / Optical Society of America

**学外活動**

電子情報産業技術協会人間工学プロジェクト客員委員(平8.12～13.3) / 北陸心理学会理事(平27.4～)

**現在の研究課題**

運動視を中心とした視覚情報処理に関する研究

人間が視覚を通じて「色・明るさ・かたち・動き」を認識するメカニズムと特性の解明を試みている。人間の視覚系には運動を検出する機構が備わっており、さらには視覚系は、動きを手がかりにして、対象の背景からの分離・輪郭線の生成・3次元構造の復元・自己運動の制御といった情報処理を行っている。このようなより高次の機能は、初期段階で抽出された局所的な運動情報を、時空間的に比較・統合化することによってなされていると考えられる。現在、この比較・統合過程を中心として、実験心理学的手法により研究を行っている。またその応用として、視覚表示デバイスの視認性や視覚疲労の問題にも関心を持っている。